



札幌市立南の沢小学校
学校だより特別号
令和 8 年 9 月 1 6 日

<http://www.minaminosawa-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和 8 年度「全国学力・学習状況調査」の結果と分析結果のお知らせ

今年度 4 月に実施された「全国学力・学習状況調査」の本校の結果についてお知らせいたします。この調査は、児童の学力や学習状況を全国的な規模で把握・分析し、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としております。本校の 6 年生を対象に実施された結果を多角的に分析し、今後の教育活動全体の充実と指導方法の改善に生かしてまいります。

【①学力テスト（国語・算数）について】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
国語	「読むこと」⇒ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 特に「文章の種類や特徴を理解すること」や「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを記述してまとめる書くこと」において高い正答率や全国平均と同等以上の成果が見られます。 「話すこと・聞くこと」⇒ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 全体としては同程度ですが、「資料を活用して自分の考えが伝わる表現の工夫を選ぶこと」や「話し合いの中で目的に応じて必要な情報を見付けること」では全国平均を上回る強みが見られます。 「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」⇒ 全国平均を下回っている。 文章全体の構成や漢字の正答率に課題が見られるものの、「文章の内容を読んで自分の考えをまとめて書く記述問題」では全国平均と同等の正答率を示しています。	①文章全体の構成を考える力（「書くこと」の課題） 目的や相手に応じて、書く内容の順序など文章全体の構成を推敲し、自らの考えを効果的に表現すること。 ②資料と文章の関連付け（「読むこと」の課題） 説明的な文章や図表などの複数の資料から必要な情報を適切に取捨選択・整理し、それぞれを関連付けて要旨を捉えること。 ③漢字と言語知識の活用（「言葉の特徴や使い方」の課題） 漢字の持つ意味を理解し、言葉の特徴や使い方を踏まえて、文や文章の中で適切に書き表し、活用すること。 ④問題形式別の傾向 記述式問題に比べて、短答式の問題における正答率が全国平均を下回っています。 ⑤話し手の意図や表現の工夫を捉える力 話し手の意図や比喻・反復などの表現の工夫に気付き、自分の意見と比較しながら聞き取ったり、話し合いの展開に生かしたりすること。	日常的な「書くこと」の質の向上（当たり前の前提として） 読み手や目的を意識した文章表現指導、および「誰に向けて、どのような構成で書くか」を児童自身が深く考えてアウトプットする日常的な指導を重ねます。 「自分で文を考える」主体的な漢字練習 全学年で漢字練習のワークを活用し、示された例文の丸写しにとどまらず、漢字のもつ意味を考えながら「自分で文を考えて書く（作文）活動」を取り入れ、確かな語彙力と言語知識の定着を図ります。 複数資料を関連付ける読解指導の充実 国語の授業において、文章と図表などの視覚資料を結び付けて、必要な情報を整理・再構成して考える学習活動を一層重視します。 目的や意図に応じた「対話・話し合い活動」の質的向上 本校の強みである高い話し合い意欲を生かし、単に意見を交わすだけでなく、相手の意図や表現の工夫を捉えて自分の考えと比較・深化させる対話指導を充実させます。

算数	「測定」 ⇒ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 〔示された情報を基に数量の関係に着目して条件に合う時間を求めること〕など、問題の文脈から条件を正しく読み取って計算する設問において全国平均とほぼ同程度の安定した成果が見られます。 「変化と関係」 ⇒ 全国平均を下回っている。 領域全体としては課題が見られますが、〔基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図（関係図）を選ぶ問題〕では、全国平均を大きく上回る顕著な強みを示しています。 「数と計算」「図形」「データの活用」 ⇒ 全国平均を下回っている。 計算の工夫や図形の性質に課題が見られるものの、〔小数の十進位取り記数法の仕組みを理解して条件に合う最も大きい小数をつくること〕や〔帯グラフからおよその割合を読み取ること〕においては、高い正答率や全国平均と同程度の成果が得られています。	①数量関係の記述・表現力（「思考・判断・表現」の課題） 問題解決のために必要な数量の関係を見だし、その解決のプロセスや理由、求め方を、言葉や数、式、図を用いて的確に記述・表現する力。 ②概念や仕組みの確かな理解（「図形」「数と計算」の課題） 公式の暗記にとどまらず、数直線や図を用いて計算の仕組みを視覚的に理解することや、図形についての豊かな量感をもつこと。 ③あきらめずに多角的に考える姿勢 一見して解き方が分からない問題に対しても、既習の学習を想起し、図や式、表などを手がかりにしながら粘り強く思考を巡らせる姿勢。 ④観点・形式別の傾向 評価観点における「思考・判断・表現」や、理由や求め方を記述する「記述式問題」において、記述を要する設問の正答率が全国平均を下回っています。 ⑤思考の途中経過を整理・保持する力 複雑な問題において、示された複数の条件を整理・保持しながら、順序立てて処理していく粘り強さと整理力。	日常の授業における「説明・言語化活動」の充実 「どのように考えたのか」のプロセスを大切にし、数式だけでなく言葉や図を用いて、ペアやグループで互いに説明し合う活動を日常化します。 数直線や図（シェーマ）を活用した、視覚的・概念的な深い理解 計算の意味や数量関係を数直線や関係図に表す指導を徹底し、いつでも「図に表して考える」ことができる学習習慣を定着させます。 ICT（タブレット端末）の意図的・計画的な活用 何でもタブレットを使うのではなく、教師が「この場面で、この目的（考えの可視化や共有など）のために使う」という計画を事前に緻密に立て、紙の良さと組み合わせた効果的な活用を目指します。 学びのプロセスを振り返り、自らの高まりを実感するリフレクションの充実 単に答えの正誤を確認するだけでなく、「どのように考えを深めたか」「次はどんな考え方が使えそうか」を客観的に振り返り、解き方の良さを価値付けていく活動を行います。
------------------	---	--	--

【②教科に関する児童質問調査について】

児童の意識を問う質問紙調査から、本校の児童の教科に対する学習への意識は以下の通りとなっています。（※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」または「よくしている」「どちらかといえばよくしている」と回答した肯定的回答の割合）

質問事項	本校	全国
国語の勉強は得意ですか	50.0%	60.4%
国語の勉強は好きですか	58.1%	57.4%

国語の授業の内容はよく分かりますか	83.8%	81.5%
算数の勉強は得意ですか	46.0%	60.1%
算数の勉強は好きですか	48.6%	56.6%
算数の授業の内容はよく分かりますか	66.2%	77.5%
国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか	83.8%	78.3%
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	66.2%	63.0%

【③児童質問調査について】

今年度本校が掲げるスローガン【『一人一人が大切にされている』と 実感できる学校の創造】が、子どもたちの教室に豊かに息づいていることを示す質問結果をご紹介します。

質問事項	本校	全国
学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新しい考えを持ったりできている	94.5%	85.7%
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	86.5%	77.6%

また、これらを支える安心感として、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」に 98.7%（全国 91.8%）、「自分には、よいところがある」に 87.8%（全国 85.6%）が肯定的に答えており、自己肯定感の高さと温かい信頼関係が本校の最大の強みとなっています。

【④本校の傾向：豊かな「土壌」と、これから張るべき「根」】

学力テストの結果と児童質問紙調査の対比から、本校の子どもたちの確かな傾向が見えてきます。本校には、お互いを認め合い、一人一人が「大切にされている」と実感できる温かい「人間関係の土壌」が豊かに耕されています。子どもたちはこの土壌からたっぷりと安心感を吸い上げ、「自分で考え、自分から取り組もう（86.5%）」とする自立した意欲や、「友達と対話して考えを深め合おう（94.5%）」とするみずみずしい「若葉（意欲や主体性）」を力強く伸ばしています。

しかし、この若葉がこれからの厳しい社会を生き抜く太い大木へと育ち、目に見える成果としての「美しい大輪の花（テストなどの学力テストの成果）」を咲かせるためには、土の下で見えない「根（確かな知識・技能、論理的に書く・説明する表現力）」をさらに深く広く張らせる必要があります。

現状は、子どもたちの主体性や表現への意欲という「若葉」が非常に豊かに育っている一方で、それを支える学力の「根」がまだ十分に伸びきっておらず、せっかくの意欲や対話の活動が、テストなどの目に見える成果（正答率）に結びつきにくい傾向にあります。

【⑤考えられる要因と今後の取組の方向性】

子どもたちの優れた意欲を本物の「学ぶ力」へと変えていくため、学校全体で以下の「根」を育てる教育活動（指導改善）を徹底してまいります。

1.「表現」に関わる日常授業の質の向上（書くことの根を太くする）

本校の児童は「友達と話し合うこと（94.5%）」や「自分の考えをまとめること（83.8%）」に極めて肯定的です。しかし、学力テストにおける「書くこと」の正答率や記述問題には課題があります。これは、話し合いで深まった考えを、いざ論理的・構造的に「文章に書き表す」という段階において、表現の「質」に課題があることを示しています。全国的なデータを見ても、「自分の考えをまとめる」授業実践の多さと「高い学力」には明確な相関関係があります。

【全国的な相関関係の図】

「自分の考えをまとめる」への回答	国語・算数・理科の平均正答率
「当てはまる」	高い傾向
「当てはまらない」	低い傾向

子どもたちの「表現したい」という豊かな意欲を、確かな「学力スキル」という根へと昇華させるため、単に文字を埋めるだけでなく、「誰に向けて、どのような構成で、どう言葉を尽くすか」を児童自身が深く推敲する日常的な書く授業を、当たり前の大前提として継続・徹底します。

2. 「自分で文を考える」主体的な漢字指導(知識・語彙の根を張る)

全学年で実施する「漢字練習のワーク」では、漢字がもつ本来の意味やイメージを理解した上で、「自分で文（短作文）を考えて書き表す活動」を積極的に取り入れます。自ら言葉を選び、文脈を作って書く練習を家庭学習で深めたり、日常的に繰り返したりすることで、語彙力を豊かにし、文の中で生きた漢字を活用できる力をしっかりと地中に根付かせます。

3. 「学びのコントローラー」を意識した主体的な探究活動

子どもたちの高い主体性を単なる「作業活動」で終わらせないよう、常に授業改善を進めていきます。札幌市教育委員会が推進する「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」というコンセプトに基づき、児童自身が課題に対して見通しをもち、自ら最適な学習方法や計画を選択しながら、主体的に解決（探究）していける授業づくりを推進します。

4. ICTの「計画的・効果的」な活用(思考を整理する根を育てる)

本校の児童は、ICT 端末を用いた情報整理（75.6%）や発表スライド作成（81.1%）に高い自信をもっています。しかし、タブレットを使うことが目的になってはいけません。教師が「この場面において、どのような指導意図をもって端末を効果的に使用させるか」を事前に計画し、紙と鉛筆での思考の深まりと、ICTによる情報の瞬時的な整理・共有を効果的にシンクロさせた「意図的かつ効果的な活用」を行います。

5. リフレクション(振り返り)のさらなる深化

「何が分かったか」ととどまらず、「自分の学び方がどうであったか」「次にどう生かすか」を客観的に見直す自己評価（リフレクション）活動を充実させ、子ども自身が自らの力で学びをコントロールし、学力を伸ばし続ける力を育てます。

【⑥一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校を目指して】

本校では、子どもたちの主体的な声を聴き、学ぶことがおもしろいと実感できる教育活動を追究してまいります。今年度のスローガンである【『一人一人が大切にされている』と 実感できる学校の創造】のもと、温かい信頼の土壌をベースに、どの子の可能性も力強く伸ばす「一生ものの根」を育てる学校づくりを、地域・保護者の皆様と手を携えて進めてまいります。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。